

浜松には「着地型観光」がある。

浜松

特別レクチャー

浜松市観光アドバイザー 須田寛

「観光は経済活動・文化事業である」

市では、観光政策助言のため『浜松市観光アドバイザー』を設置し、東海旅客鉄道(株)相談役を務める須田寛氏にその役目を担っていただいています。市が新しい観光形態へ転換を図ろうとしている現在、市民に向けてのメッセージとアドバイスをいただきました。

浜松市は他都市と比べて、観光面においてどんな魅力、特長があるのでしょうか。

市民の中には浜松は観光する場所があまりないと言っている方もいます。

浜松市の南端、遠州灘の海岸線から北へおよそ70kmの市域は山深く、2000メートル級の山がそびえ立つ。アクトシティからの眺望は見渡す限りの街。中心部には工業地帯、天竜川流域は田園地帯、浜名湖周辺は漁業や温泉、三万原台地には農業。また、市内全域には古代の史跡や徳川家康公にまつわる歴史が数多く残っています。全国で唯一といっていいほどあらゆる観光資源がそろった、どんな観光スタイルも実現できるマルチ観光地といえます。



地元の人には、身近にある観光資源に気が付かないものです。富士山が目に見え、それが見えれば、せつかくの富士山の見え方をすりガラスにしてしまった施設の例もあります。また「観光は単なる遊び」という認識が強調されている点もあります。観光は文化事業であり経済活動であることを認識することが大事です。浜松の多面的な観光資源は、産業観光、グリーンツーリズム、街道観光、インバウンド戦略などに展開が可能です。例えば東南アジアでは近年、日本の楽器やオートバイが普及していますが、彼らはそれが日本のどこでどのように造られているのか非常に興味を持っています。そんな人たちが浜松の工場や企業を訪れる。それが観光の糸口ともなるのです。

市の目指す浜名湖を起点にした観光形態を展開する上で大切なことは何でしょうか。

市民が「着地型観光」においてできることや役割はどんなことでしょうか。

浜松市は確かに魅力が豊富ですが、その魅力は広域に散在していますので、それを結び接着剤のような仕組みを作ることです。浜松が国内旅行の通過地になりがちな状況も改善されると思います。浜名湖を拠点に都心部や中山間地域にも観光ゾーンを作り、地域同士が連携して、旧市内や浜名湖と天竜区でそれぞれ一泊し、観光して帰るといったような市内を三角形で結ぶモデルコースを設定する。また、市内中心部には浜松城がありますから、姫路城のようにここを観光センターとし、いったん観光客をまとめて、そこから浜名湖をはじめ市内の各地に誘導することも有効でしょう。「着地型観光」によって、物見遊山的な観光だけではなく、体験や交流を目的とする地元が主体となった新鮮な観光プログラムを提供することがこれからの浜松の観光には重要です。それには地域の魅力を掘り起こし、オリジナリティーや味わいのある観光にシフトすること。また、佐久間ダムのようなかつてにぎわった観光ポイントを再構成して新しい世代に発信することも可能性のひとつです。さらに「着地型観光」には地元の人と対話や交流ができる「ミニミニセンター」の設置も必要になると思います。



須田寛 すだひろし
昭和6年生まれ、29年3月京都大学法学部卒。同年4月日本国有鉄道入社、62年4月東海旅客鉄道(株)代表取締役社長、平成7年6月同代表取締役会長、16年6月同相談役。2012(平成24)年より浜松市の観光アドバイザーに就任。主な著書に「新・観光資源論」「街道観光」「東海道新幹線50年」などがある。

「着地型観光」は住民主体の観光開発が基本ですから、市民は、観光客目線に立つて身の回りにある観光資源を見過ごさないこと。そして市民間の観光ネットワークを充実させ、地域の魅力を束ねて新しい観光を創出してほしいです。市内には、観光に関わる企業や店舗が、都市部から郊外まで地域全体に存在しますから、観光は観光客に市内全域でお金を使ってもらえる産業であり、地域の人と対話が生まれ、特産物と出会ったりする機会を育む文化事業です。これは地域の経済や文化が潤い、巡り巡って市民が豊かになるということなのです。ですから、観光する心と誇りを持って「浜松はこんないいところなんだ」ということを理解し、皆さんは、観光大使になったつもりで観光客を迎えていただきたい。そうすることで、浜松市のステイタスはあがっていくのです。

あかあか

浜松 浜松観光資料室

「進化、多様化する現代の観光の基本を学んでみましょう」



着地型観光とは

旅行者を受け入れる側の地域(着地)側が、その地域の観光資源をもとにした旅行商品や体験プログラムを旅行者に提供する形態。さまざまな体験や交流をとおりて地域の魅力を味わえることから、浜松市にふさわしいスタイルとして推進している。



MICE(マイス)とは

- ①Meeting(会議・研修・セミナー)
 - ②Incentive tour(報奨・招待旅行)
 - ③Convention(大会・学会・国際会議)
 - ④Exhibition/Event(見本市、イベント)
- の頭文字をとった造語で、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

インバウンドとは

外国人旅行者を誘客すること。市への外国人宿泊客数は2013(平成25)年は168,270人(観光庁調べ)で県内最多。中部エリアでも名古屋市、高山市に次いで3番目に多い。

浜松で体験できるいろいろな観光

産業観光	その地域特有の産業に関する工場施設や生産者、歴史などを訪ね、モノづくりを知る観光活動。浜松市は、輸送機器、ピアノ、食品など産業観光案内のパンフレットが一冊できてしまうほど、施設や企業が多彩で充実している。
グリーンツーリズム	農山漁村地域において自然、文化、交流を楽しむ滞在型の余暇活動。農作業・農産物加工体験、食育などがある。浜松ではガーベラの花摘みツアーやホテル鑑賞ツアー、古民家を活用した農家民泊が人気。
エコツーリズム	自然環境や歴史文化を対象とし、それらを損なうことなく体験し、学ぶ観光。野生動物観察、植林や環境保全ボランティア的ツアーなど。浜松は、浜名湖のアマモ場観察会や天竜区の秋葉街道を巡る旅など、水辺から山里まで対象エリアが広範囲。
街道観光	地域の街道を歩いてその周辺の文化を学び、住民との交流を楽しむ観光。浜松は「東海道」をはじめ「姫街道」「塩の道」など歴史が生んだ街道が交差する。市内には、浜松城周辺に残る家康公ゆかりの地を歩いて巡る「家康の散歩道」が設けられ、市民や観光客がウォーキングを兼ねて楽しんでいる。

地域の宝を生かしておもてなし。